

たがけい学報

Bulletin of Takasaki City University of Economics

高経大生の
キャンパスライフを
サポートする情報誌

no. 90

特集

熱血！高校生販売甲子園



特集

熱血！高校生販売甲子園

“甲子園”といえば兵庫県の地名ですが、皆さんが連想するのは地名でも球場の名称でもなく、春と夏にその地で開催される“全国高等学校野球選手権大会”ではないでしょうか。がむしゃらに白球を追いかけることに青春を費やすその姿は、すでに1世紀近く日本人の心に感動を与え続けています。そしてその影響からか、“〇〇甲子園”という名称は様々な競技大会に用いられることがあり、特にそれは高校生が対象になる競技が多いようです。

熱血！高校生販売甲子園は、その名からも分かりますとおり、高校生が販売を競う大会です。イベントの名称だけでは、なぜこのたかけい学報で特集として取り上げるのか、不可解に思われる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、実はこの企画を立ち上げたのは他でもない、本学の学生たちでした。第1回開催から6年間、先輩から後輩へとこの大会にかける思いを継承し続け、今では高校生として販売甲子園に参加し、それを機に本学に入学、実行委員として参加している学生もいるほどです。この販売甲子園の魅力とは？高校野球に負けずとも劣らない、熱のこもった高校生、大学生の姿が見えてきました。



CONTENTS

- 1-2 特集「熱血！高校生販売甲子園」
- 3-4 販売甲子園ってなあに？
- 5-6 販売甲子園の組織
- 7-8 販売甲子園をつくる人々
- 9-10 販売甲子園優勝高校インタビュー
- 11-12 販売甲子園、終わりに
- 13-14 留学体験記「使いこなせる言語が一つ増えると
自分の中の世界が一つ増える」
- 羽鳥 健太郎さん
- 15-16 『映画』で世界を変える！映画研究部 田中 幸城さん
- 17 ふるさとを語る日本編 その30 栃木県足利市
「群馬県のお隣さん 離れて感じる特別な思い」
菊池 彩さん
- 18 ふるさとを語る海外編 その29 中国武漢市
「情熱的な都市 繋ぐ都市」 王 翔さん
- 19-20 学生団体紹介
- 21-22 たかけいグラフィティ
- 23 写真部が行く⑩
「SLが走る街」 吉野 真洋さん
- 24 体育会 no.74「柔道部」 和合 真也さん
文化サークル協議会 no.75「棋道部」
和田 豊葵さん
- 25-26 たかけい INFORMATION

販売甲子園ってなあに？

UMPIRES
CH IB IB IB IB



販売甲子園のルール

販売甲子園の実行委員会は、県内、近隣の高校から参加校を募集し、エントリーした各チームに、6万円の資金を貸与します。各チームは商品を考え、仕入れ、販売価格や販売方法などを創意工夫して、大会当日に会場で販売活動を行います。

ここまでですと、単に文化祭を街

中で行うのと同じです。経済大学の学生が関わる理由とこの大会の本質はこの先にあります。

大会は、ただ販売して終わるわけではなく、審査員が審査を行います。審査は売り上げ、利益、接客態度、アイデアの4点をもとに判断し、優勝、準優勝、第3位までを表彰し

ます。また、資金は貸与なので、大会が終了すると返金しなければなりません。当然、予算の範囲内で市場を意識し、利潤を追求しつつ、接客の評価も得ながら、自分たちのチームを勝利へ導かなければなりません。たった2日間ですが、そこには立派な“商売”が存在するのです。

主役は高校生！

販売甲子園の主役はタイトルのとおり高校生です。原則、販売するものに決まりは無く、自分たちで商品を作ったり、高校で作っているものを商品にしたり、地元から商品を仕入れたり、自分たちのチームで意見を出し合いながら、販売するものを決定します。そして、決定した商品

の価格、宣伝方法や売り方を考え、大会の2日間のうちに実践します。高校によっては授業の一環として取り組んでいるところもありますが、多くの参加校生徒は、放課後や休日などを利用して、大会までの数か月間、販売甲子園に没頭します。

昨年第6回大会の栄えある優勝

校は、勢多農林高校。実はこの勢多農林高校は、前回第5回大会に参加した際に準優勝を獲得しました。その一歩及ばなかった悔しさをバネにして、第6回大会に臨んだそうです。この高校生たちの強い気持ちこそが、大会を増々盛り上げる原動力となっています。

大学生は地域を繋ぐ

販売甲子園の運営を行う実行委員会が、本学の大学生です。主役の高校生が順調に大会に参加でき、終わられるよう、完全な裏方に徹します。

大学生の担う実行委員の役割は、大会を運営する資金調達のための企業訪問、大会会場や大会準備の場所の借用、大会の出場校募集や集客

のためのPR、各参加校への技術アドバイスなどです。

こうした動きが、大会のテーマでもある、交流による人の輪と絆づくり、地域の活性化という言葉どおり、大会の開催地である地元の商店街や商店街組合、市役所、そして高校生を繋ぐ役割を果たしています。

2008年に7人の実行委員から始まった販売甲子園は、第6回では総勢69人の大所帯になりました。出場校は、6校8チームだった第1回から段階的に参加の呼びかけを広げ、15校20チームと、大きく数を増やすことができ、今では県外の高校からも参加依頼があります。

舞台は「高崎えびす講」

販売甲子園の舞台は、高崎市街地の商店街が毎年11月下旬の2日間で行う「高崎えびす講」です。

えびす講は、昭和初期の不況の中、高崎の商人たちによる景気ばん回の方策として、昭和4年に第1回が開催されました。破格の安売りに併せ、余興演芸場なども設けられたことか

ら、買い物客で大いににぎわいを見せ、その後、商都高崎の不景気を払拭するきっかけとなりました。昭和10年には飛行機で空から宣伝を行い、近県からも買い物客が集まるほどの人手になったそうです。

戦時中は、物資不足から一時中断しますが、昭和22年に再開し、

2013年は85回を迎え、高崎の冬の風物詩として今日に至ります。

この様に、えびす講は高崎市街地の商店街の方々には、“商都高崎”の魂ともいえる年末大セールです。販売甲子園はこのえびす講の一環として、商店街の皆さんの惜しみない協力を得ながら運営しています。

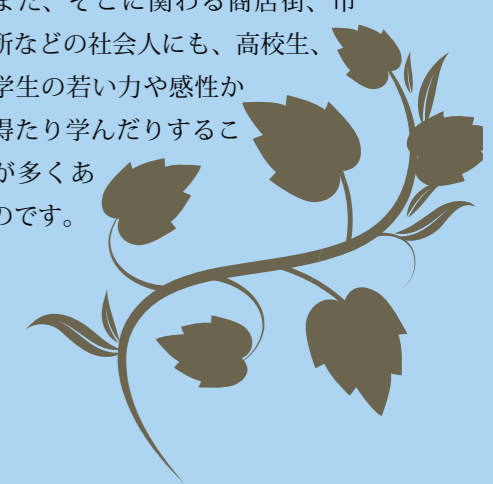
販売甲子園は学びの場

販売甲子園には、大学生はイベントの運営を通じた地域社会とのコミュニケーション、高校生は商品開発と販売という、双方に実践的な学びの場があります。

普段の学びの場である“学校”は、実は社会からは一歩離れた“守られた”空間です。イベントという社会

の空間に踏み込むことで、実際の地域に関わりを持ち、地域で生きることを体感できます。この様な大きな学びだけでなく、あいさつ一つ取っても、接客としての対応と友達や家族としていたこととは別の意識を要求されるので、個人としての小さな気付きも多くあります。

また、そこに関わる商店街、市役所などの社会人にも、高校生、大学生の若い力や感性から得たり学んだりすることが多くあるのです。



販売甲子園が行われるのは、年末のたった2日間に過ぎません。しかし、この大会を開催するためには、多くの人材、そして時間が必要です。

販売甲子園の実行委員は、11月の2日間に向けて1月から活動を開始します。そこから毎週のように会議や打ち合わせを重ね、持ち場持ち場の役割を進めます。大会終了後も、12月までには報告書をまとめて報告会を行うので、1年間通して販売甲子園を作ります。



最終的に報告書として大会活動をまとめる。サポートとして高校生を見守った担当スタッフによる報告は、高校生の日々の心の変化や成長も見て取れる。

月	内容
1月	「準備委員会発足」
3月	3月までの間に高校への案内状の作成や送付を行う。リーダーは目標・組織体系・年間計画を決める。
4月	「大交流会開催」 前回大会に出場した高校生・先生と大学生が参加。交流を持ち続ける。
5月	「実行委員新入生募集」
8月	「実行委員各班確定」 参加高校を募るため、高校へ電話や来校してアプレゼン活動をする。
9月	「人情市参加」 大学生と地域の交流、販売甲子園の宣伝を目的に、だるまの絵付け教室を出店。
10月	「事前説明会(大学生と高校生の交流)」、「三扇祭参加」 協賛店・高校生等に新聞を配布。
11月	「大会当日(11/16, 17)」 三扇祭ではガラス屋さん体験を出店。
12月	「レクリエーション(大学生・高校生・地域の交流)」 「報告書配布」



第6回大会の実行委員のみなさん。

第6回実行委員 69名

実行委員長1名を筆頭に副実行委員長2名、そして各担当ごとに班編成があり、それぞれリーダー、サブリーダーを1名づつ置きます。組織体系は年により必要性を踏まえて見直しを行います。第6回大会は、高校班、地域班、交流班、広報班の4班体制で組織し、参加校を増加するという目標があったため、

高校班メンバーを確保したうえで他班のメンバーを配置しました。各班への加入は、基本は希望制ですが、高校の傾向やメンバーの経験値なども考慮して、バランスを考えながら組み立てます。体制や方針を考え、メンバーを当日まで導くのが実行委員長、副実行委員長の役割です。

高校班

大会では、参加校のすべてにサポートの大学生を配置します。このサポートを担当するのが高校班の役割です。学生は、当日まで担当の高校に何度も通い、商品開発やPR方法などのアドバイスをしながら、2人3脚で大会に臨みます。時には試食をさせてもらったり、高校生と一番密接に関わることになります。

地域班

大会を運営するためには運営資金が必要です。この資金を得るために営業活動を担当するのが地域班の役割です。市内を歩いて協賛企業や店舗を探し、協賛金を募ります。時にはアポなしの飛び込み営業もします。そして、協賛社への感謝の気持ちを込めてパンフレットを作成するのも、地域班の仕事です。

交流班

大会は、当日の午前中に交流会も行います。この交流会を担当するのが交流班の役割です。まず、大会のPRと地域と大学生の交流を目的に、8月の人情市でだるまの絵付け教室を出店、10月は大学生と高校生の交流会、そして当日、3者で合わせたの交流会となります。今年は商店街での借り物競争を行いました。

広報班

大会を成功させるには、多くの来場者に来てもらわなければなりません。この来場者へのPR活動を担当するのが広報班の役割です。大会ホームページの作成、メディアへの取材依頼や対応、各高校の活動記録、大会当日の記録だけでなく、最終日に放映する大会当日の映像制作なども手掛けます。

誰にもゆずれませんでした
大会最後のあいさつは



大学に入学したら「何かしたい、何かやらないと…」という気持ちがありました。そんなときにこの大会のことを知り、楽しそうだなと思い、実行委員に加わりました。1年次で会計担当、2年次

この先も大会に関わりません
地域づくりに引退はない

商業高校に通っていた頃から、販売甲子園の構想を練り始めていました。当初は高校生の成果発表の場として、高校間で交流できる場を作ろうと思っていただけでしたが、高校生から見ると大学生と言えば遊んで

で地域班のリーダーを務め、その時副実行委員長が辞めてしまったことからその役割も兼任しました。その中で、会議はただ開くのではなく、結論に導くために作るものだとすることを学びました。大会の最後にあいさつをする実行委員長の姿が印象強く、それを自分

主役の高校生を支えるため
実行委員を育成します

高校3年生の時に販売甲子園に参加しました。クラスの仲間はあまり乗り気ではなかったのですが、自分でも不思議なくらい挑戦したいという気持ちがあり、先生の力添えでメンバーが集まり、参加できる




いるか研究しているかの両極端のイメージしかなかったのが、大学生とも交流できる機会を作りたいと考えていました。高校3年生の時、高経大のDNAという団体に所属していた学生、藤井さんと知り合い、私が高経大入学後、3年次だった藤井さんと、同

できるだけ賑やかな場所
経験させてあげたかった

息子に販売甲子園の話を持ちかけられた時、高校生には賑やかな時期と場所ではなかったのですが、自分でも不思議なくらい挑戦したいという気持ちがあり、先生の力添えでメンバーが集まり、参加できる


でなく商品提供店の人も来場していただけ、祭りがさらに賑わいを見せています。参加校もさらに増え、今では、えびす講の核となるイベントの一つに成長しています。実行委員の学生は、自分たちでパンフを作り、協賛を募り、時には大人達と衝突することもあります、

販売甲子園に1年次から参加し、第6回大会の実行委員長を務めた人




地域政策学部
4年次
南 裕介さん

1年次の時に販売甲子園を立ち上げ、育て、卒業後も支え続ける人




地域政策学部
卒業生
友光 亮太さん

高校生の時は販売甲子園に出場し、大学で実行委員として参加する人



地域政策学部
3年次
横田 卓也さん

販売甲子園とえびす講を繋ぎ、成長するイベントを見守り支える人



中部名店街
理事長
友光 勇一さん

がやりたい一心で、3年次は実行委員長を務める決意をしました。実行委員長として大変だったことは、傍からは毎年同じことを繰り返しているように見えますが、学生は毎年入れ替わります。その中で同じクオリティ以上を目指すのはとても難しいことでした。実行委員の人数

が増えたのはとてもうれしいことでしたが、必然的ながむしやらに販売甲子園のみという姿勢の学生が減り、他の活動も大事にするという傾向がみられるようになりました。また、不備などで高校の先生や地域の方からお叱りを受けたとしても、自分たちで責任を受け止め謝り

に行き、解決させなければならないなど、大変でもありよい勉強でもありました。新たな試みとして、参加20チーム、毎月新聞発行、人情市参加などができ、実行委員長として、自分のわがままを叶えてもらった1年だと思えます。



める松本さんのお父様に、イベント開催に向けての様々な助言や指導を頂きながら、商店街や協賛店への協力を募る活動を進めました。参加校への呼びかけは大変でしたが、当てが無く、最初は母校から声掛けを始め、高校の先生同士の紹介をたどって範囲を広げました。第4

回大会では高校から参加の依頼が来るようになり、感激しました。本格的にルールブックを作成し、充実度が増したのも第4回からです。今は大学を卒業し就職しましたが、地域づくりに引退は無いという松本代表の言葉を胸に、この先も大会に関わり続けたいと思います。

ですが、販売甲子園への参加をきっかけに高経大を目標に定め、勉強にも熱が入るようになりました。高校生の時は、販売することだけを考えていれば良かったのですが、実行委員は、同じ実行委員会の仲間、地域の手伝ってくれる方、協賛社の方々まで意識をする必要があり

ます。実行委員の仕事は想像以上で、協賛社まわりでの言葉遣いなど、今まで意識したことがない体験を色々とできました。自分が高校生で参加した時の経験値を生かし、1年次は高校班を経験し、2年次で副実行委員長になりました。高校生をサポートするには、

やはり実行委員各自がしっかりし、判断力がないといけません。今後、私は対外的な部分よりも、役員だけでなく、実行委員一人ひとりの声をくみ取り、みんなが活躍できるように組織を作りたいと思っています。そして、高校生へのサポート力を強めていきたいです。

不慣れながらも一所懸命取り組み、大人の階段を上っています。販売甲子園を経験し卒業した大学生や高校生も、この日に併せて戻ってくれるようになり、とても嬉しく感じます。4年間高崎で暮らしていても、大学とアパートとバイト先の往復だけで、街と関わらないまま卒業してし



まう学生が多いことを、とても残念に感じていました。せっかく高崎に4年間もいたのであれば、第二の故郷だと思ってほしいですし、街を元気にしたという自信をもって卒業してほしい。そして、卒業してからもまた街に遊びに来てほしいと思っています。

第6回大会は、参加数が15校20チームと、過去最多のチーム数となりました。その激戦の中で優勝を勝ち取ったのは、前橋市にある群馬県立勢多農林高校のチーム「Smile Gift II」でした。

勢多農林高校は今回で3回目の参加。1回目は教員主導で参加しましたが、2回目以降は生徒が率先して参加しているとのこと。

今回販売したのは、マドレーヌ、りんごジャム、ころとんパン、大判焼きでした。出場回数3回にして、見事栄冠を勝ち取ったチームの監督、筑井先生と、キャプテンの村山さんに、お話を聞きしました。

筑井先生 (右ページ写真右上)
昨年準優勝という結果だったので、そのリベンジを果たさせてあげたいと思っていました。

今回参加したのは1年生と3年生の計9名です。3年生のメンバーのうち3名が前回大会を経験し、その他は初めての参加でした。

商品のマドレーヌは昨年も出品したのですが、今回はプロのパティシエに作り方を教えてもらったり、前橋市のキャラクター“ころとん”(写真下の豚のキャラクター：前橋は全国的にも養豚が盛んで豚肉の消費量

も高いため豚で町おこしをしています)の焼き印を押したりして、工夫を凝らしました。

村山さん (写真右上2番目)
その他に工夫した事は、「ディスカバー前橋」というテーマのもとに、ラベルをころとんにしてお客様の目を引くようにしたところです。店舗の装飾もころとんをたくさん散りばめ、イメージを統一してテーマ性を大事にしました。

また、去年は学校で作ったりんごジャムやマドレーヌを販売しただけだったのですが、今回は地元の社会福祉施設からころとんパンを仕入れて販売し、企業との繋がりも持てる大会となりました。

筑井先生
私も今回初参加だったのですが、初出場から関わってきた平田先生からのアドバイスを基に、基本的には生徒が主導で自主的に意見を出し合っていました。生徒の様子を見ていると、今回の大会を通して、色々な人と触れ合うことができ、社交性やコミュニケーション力が身に着いたと感じています。普段は大学生と関わることもないので、生徒にとって大変よい経験になったと思います。

村山さん
担当してくれた大学生には、迷惑をたくさんかけたと思います。最初会ったときは少し怖いイメージもありましたが、徐々に打ち解けられました。分からないことなどに対して力を貸してくれ、丁寧に対応してくれて本当に頼りになりました。

筑井先生
今回参加した生徒は、専門科目である流通経済部に所属しており、部活動

としての側面もありますので、次回の大会も、機会があれば経験者を中心に参加させたいと思います。

村山さん
今回、リーダーとして参加したことで、リーダー意識が身についたと感じるので、今後進学や就職などをしたときに活かせるのではないかと感じています。

メンバーで意見を出し合って何かを決めるときに、リーダーとして自分が中心になってまとめることはとても大変なことでした。

私は、前回2年生の時に初めて参加したのですが、上級生の3年生に対して自分の意見を言えないことがありました。その経験から、今回は、一緒に参加した1年生にできるだけ気を使わせないように心がけました。その結果、チームワークがまとまり、仲よく活動でき、それが勝因のひとつになったと思います。

筑井先生
1日目に完売できなかったということもあり、最後の最後まで優勝できるとは思っていませんでした。結果的には、各評価項目で1位こそなかったものの、まんべんなく高評価だったことが、優勝に繋がったのだと思います。

村山さん
今回、私たちは昨年以上を目指して取り組みましたが、他の学校も昨年に比べ色々工夫されていたので、最後まで不安でした。

今年参加した後輩には、次回も率先して参加してほしいです。そして、優勝旗を守ってほしいです。私はもう卒業していますが、ぜひ当日は来客として協力したいと思います。

筑井先生
高校としては、販売甲子園は実践の場として、教員の介入は最小限に、大学生と協力しながら生徒主導で取り組んでほしいと思います。





市内から来場した
片山さんご家族

初めてえびず講に来ました。販売甲子園のことは知らず、お祭りのような屋台が並んでいるものだと思います。高校生が販売活動をしていて驚きました。
沼田高校の団子汁、藤岡北高校のミートドックを食べ

べました。両方おいしかったです。何より接客がすばらしく、高校生とは思えないほどでした。強いて言えば、もう少し列の整理などしてもらえると、ペビーカーを押す私たちのような客にとってありがたいです。一所懸命さが伝わる大変気持ちのいいイベントだと思いました。

大胡町から来場した
福田さんご夫婦

娘が、大会に出場している高校の教員をしているので、販売甲子園のことは知っていました。上毛新聞にも開催記事が載っていたので、興味を持って来てみました。これからえびず講全体を周るつもりです。

販売甲子園については、一つの目標に向かってひた向きに頑張っている高校生の姿が印象的でした。それに加えて、高校生を支える高経大生の力や地元の方の協力が伝わってきました。高校生にとって心に残るものになると思います。元気で一所懸命な若者たちを応援したいです。



販売甲子園は素晴らしい経験を高校生や大学生に与え私たちに感動を与えてくれます

商工会議所副会頭
網島 信夫さん



他都市から来た人がこの大会をみて、高崎はこんなに元気のある街なのかと驚くほどです。
大学生だけの大会運営はとても大変ですが、この大会はまさしく地域政策の目標を提供してくれる場です。彼らは大会を通じ、素晴らしい経験をしています。知識も当然大

切ですが、このような経験を通して人間形成ができます。一般企業経営者が実行委員を見て、「うちの企業に来てほしい」と言うくらいです。
高校生は、参加決定から販売当日まで、日に日に目の輝き方が変わって見えます。販売甲子園には教育的な効果があるということを感じまし

た。高校生、大学生が成長する姿をみるのはとても感動します。商店街として若者にいい機会を設けられ、嬉しく思っています。
地域に密着した活動をし、地域で想い出づくりをして、卒業していく。OBが休暇を取ってまで応援に来るという絆も素晴らしいことです。

網島さんは販売甲子園の趣旨に賛同し、大会には欠かせない優勝旗をご提供いただいています。

販売甲子園の主役となる高校生たちは、ただひとつの優勝旗を目指して開催日まで様々な体験や困難をくぐり、その何か月かで培った力を2日間で出し切ります。努力の集大成ともいえる結果発表で一喜一憂する姿は、関わった人だけでなく来場者の心も揺さぶります。

もう一方の主役、本学の学生たちは、実行委員として高校生のステージをつくり、大会を終えるとすぐに次の組織編成を始めます。毎年代替わりする学生は、また一から1年間かけて大会をつくることになるのです。大会を順調に継続させ、更に年々発展させるため、学生もまた、様々な体験や困難をくぐります。大会フィナーレの感慨は、むしろ高校生以上かもしれません。

高校、大学で過ごす時間は、その先の人生を考えるとわずかな時間です。しかしこの時期は、費やした時間の長さではなく充実感や達成感が成長に繋がります。販売する高校生、大会運営する大学生の姿は、最初は不器用にすら映りますが、徐々に頼もしくなり、大会を終えた時には大人の顔になっています。

そして高校生、大学生たちの汗と涙のステージ、販売甲子園も、高校生は大学生と、大学生は商店街など社会人と、そして社会人は、高校生と大学生の若い力と、時にぶつかり、理解を深めながら困難を切り抜け、最後に共有する感動とともに、更に大きなイベントとして成長を続けています。





留学生体験記

使いこなせる言語が一つ増えると 自分の中の世界が一つ増える

経済学部 4年
羽鳥 健太郎 さん

今回私が交換留学を希望するに至った動機は、経済学についての知識を深めたい、英語をより実践的な形で習得したいと思ったからでした。また、世界各地から集まる留学生と接することで視野を広げたいと思い、留学を決めました。今では簡単にどこへでも行ける時代になってきていますが、そういった潮流の中で1年間というスパンで、旅行ではなくて『生活する・学ぶ』という点に重きを置いた交換留学生という身分で海外生活を送ることに意味があると考えました。

留学の目的・スタイルは人それぞれですが、私の場合、留学で得た経験や刺激が私の中で化学反応を起こし、今後の人生において意味深いものにしたいとい

う期待がありました。そんな昂揚感を持って臨んだ交換留学でしたが、実際に渡独してみると、最初にぶつかったのは言葉の壁でした。右も左もわからないまま異国に降り立ってみると、会話を聞き取ることが出来ず、意思を伝えることも叶わず、焦燥感に襲われました。空港から寮までの道中もハラハラで、ごく当たり前のことがものすごく大変なことに感じたのを今でも鮮明に覚えています。「とんでもない世界に足を踏み入れてしまった。」というのが当時の正直な感想でした。

そして、一番の大きな壁は自分のひ弱なプライドでした。それまでは、良い意味でも悪い意味でも「何とかなる」人生を送って来ていたため、留学先でも何と



か乗り切れると高を括っていた部分がありました。しかし、渡独後は、あらゆることが一筋縄では行かず、「何ともならない」日々が始まりました。

大学の講義のあり方や学生の勉強へ向かう姿勢は、これまで経験していた単位取得に重きが置かれる傾向とは大きく異なるものでした。大学の講義は教授からの一方通行ではなく、学生と共に作り上げていくものでした。講義は、物事の本質に迫る活発なディスカッションが通常であり、建設的な内容で、アカデミックな刺激を沢山受けました。ケーススタディやグループワークなどの実践的な講義が多く、探究心を刺激され、『学ぶ』ことの本質を感じ取ることが出来ました。

また、海外では日本のように、黙っていても心で通じ合う、「察してもらえる」という曖昧な状況はありません。考えがあるなら口にする、何も言わないのは何も考えていないからだ、と見なされてしまいます。渡独後しばらくは、正しく話せないことを恥じ、美しく話せないことにコンプレックスを感じる日々が続きました。最初はそんな鬱々とした日々でしたが、いつまでも内向きではいられないと、意を決して周りの人たちに自ら話しかけ、多くの失敗や恥ずかしさの中から一つ一つ居場所を広げていきました。

そして、言葉は必要不可欠のものではありましたが、意思疎通のための一つのツールであることに気づかされました。学びとしての言語ではなく、学びを深めるためのツールとして言語というものが必要なのだと思うようになりました。『使いこなせる言語が一つ増えると自分の中の世界が一つ増える。』そんな言葉を現地の講義で聞き、大変感銘を受けたのを覚えています。

国際豊かだと、友達同士の何気ない食事の場でも突然自国の情勢や政治の話になります。彼らは自分の国について理解し、しっかりと自らの意見を持ってそれを自分の言葉として伝えることが出来ていました。また、他国の学生の方が日本について詳しくったり、授業で私の知らなかった日本の考えを取り上げていたりなど、その度にあまりに無知な自分が不甲斐なく、それま

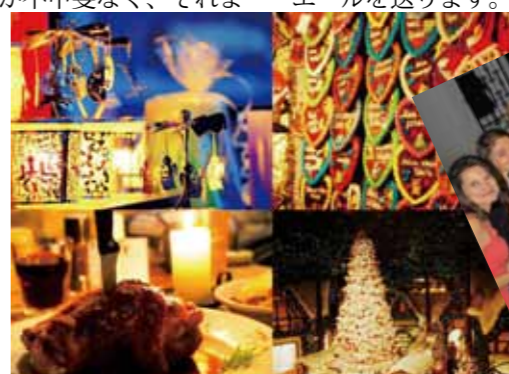
で物事を深く考えず、問題意識も持たぬまま生きてきた自分に愕然とすることの連続でした。

自国について語る友達に対して羨望の思いを抱く一方で、自分が意思表示出来ないのは偏に語学力の拙さに依るものと自らに言い訳していたように思います。しかし、問題の本質はそこにはありませんでした。知らないのではなく、自分が知ろうとしていなかっただけなのだと思い至りました。興味を持つからこそ探究心がわく。最初から、出来ない、知らない、わからないと決めつけることほど、自分の可能性を押しつぶしてしまうものはないのです。問題意識と探究心を持つことの大切さ、そのためにアンテナをいつも高く掲げて生活することの大切さを、遅ればせながら学びました。

『留学に行く』この言葉自体にインパクトがあることは確かです。しかし、私はその留学という誰もが経験することのできない貴重な体験を、どのように創造していくかが本当に大切であると思っています。当初、私は多国籍な集団の中で生活を送ることで、自らの視野が広がると安易に考えていました。しかしそのためには、まずは己を知ること、日本という自分の国について知り、自らの意見を持ちそれを異なる意見を持つ人とシェアすることによって、初めて今までにない新たな観点を取り入れることが出来るのだと感じました。日本のことをより深く知り、そして他の国々の現状を広く知ることによって見えてくるものが違って来ますし、同時に以前に比べて日本という国を俯瞰して見られるようになった思いがあります。

様々な問題を個別の事象として捉えるのではなく、様それらが相互に関係し合うものとして各々を結びつけ、それを線、そして面としていくことが学びの本質なのだ感じ、それを目指していこうと強く思うようになりました。

これから留学を志している人たちに向けて、学びにおいても生活においてもたくさん経験し、大いに格闘してきてほしいとエールを送ります。





自主制作映画「Tanpopo」
企画書とシナリオ



『映画』で世界を変える!



映画「Tanpopo」スタッフ



ベトナムの風景



ベトナムでの撮影の様子

映画研究部の部員と部員が参加し自主映画作成のきっかけとなった藤橋誠監督による“まち映画”「グラス・ホッパー」と「漂泊」後列左から3番目が田中さん



映画研究部 経済学部 3年 田中 幸城さん

勉学、部活動、趣味、etc. 本学に集う学生でも、多種多様な生活があります。その中で、気合いを入れて頑張る学生達の一部をレポートし、あなたの学生生活にスパイスを与えるためのコーナーが、この「学生クローズアップ」。今回は映画研究部をクローズアップします。映画研究部幹事長の田中さんは、2014年3月現在、自主映画制作のためベトナムで海外ロケを敢行中。映画研究会の有志に加え他大学の学生も参加する、壮大なスケールの映画制作にける意気込みをうかがいます。

きっかけは1つの言葉。

『見る前に飛べ、落ちながら考えろ』東京のベトナムインターンの説明会でこんな言葉のあるビジネスマンの方に頂きました。自分にしかできないことをしたい、面白いことをしたい、そう考えていた私は大学1年次に経験した群馬県内でのまち映画制作をベトナムでできないかと考えました。

ベトナムは今や日本の最友好国の1つ。日本へ来るベトナム人学生の

数は今では前年比の5倍にも増えています。去年2回の渡航を経験し、今回2014年3月、満を持して12人のメンバーと、撮影をするためにベトナムに飛び立ちました。3月1人だった私には今では5大学、19人の仲間がいます。

『Tanpopo』

私たちが制作する映画の名は『Tanpopo』。由来はベトナム中部都市ダナンにある日本の教育方針を取り入れたタンポポ幼稚園にあります。「このタンポポ幼稚園で育った子供たちが自らの信念を持ち、ベトナム全土に、世界に、飛び立って大きく花を咲かせる」というもの。ひとかけらの夢を持ち海外に飛び込んだ学生の葛藤、日常を描きます。

困難を乗り越えること

映画制作は正直大変です。予想外な事態なんていくらでも起こります。実際、私たちは日本で予定して

いた撮影シーンが大雪のためすべて延期になってしまいました。高崎市役所観光課の方との撮影の段取りもすべて1からに。けれど映画は撮影までが完成の20%と言われます。上映して人に見せるまでこれからも多くの困難が待っていることは間違いありません。折れずにそれに立ち向かうことで成長します。

出会いがすべて

私たちが映画を作るときに強く意識することがあります。それは映画制作を通して最終的に『人と人との繋がりを創る』ということ。それまで自分にはあまり関わりがなかったように思えた人と、映画制作を通して出会う。またそれまで関わっていた人とも、もっと親密になる。それが大切。かけがえのない出会いがもたらす結晶が私たちにとっての『映画』です。



ふるさとを語る

日本編 その30

栃木県足利市 「群馬県のお隣さん 離れて感じる特別な思い」

群馬の隣の故郷には

観光名所も特産物も盛りだくさん

栃木県は北関東に位置し、本学のある群馬県の隣にあります。栃木県には日光東照宮をはじめとした、歴史のある建造物が存在しているため、観光地として多くの人に認知されています。私の出身地である足利市にはココ・ファーム・ワイナリーがあり、ここで作られるココワインの味は有名なソムリエにも認められています。また、栃木県の特産物といえば、「苺」が出てくるように、各地で収穫体験をすることもできます。更に、宇都宮では毎年、たくさんのお店が参加する「餃子祭り」というものが開かれ、各地からたくさんの方が訪れます。



左：平成 26 年に本堂が国宝に指定された『鏝阿寺（ばんない）』。春は桜、秋はちようの黄葉が素晴らしい市民には「大日様（だいにちさま）」と呼ばれ親しまれている。
右：日本でも最も古い学校として知られる『足利学校』。現在は江戸時代の姿が復元され一般開放されている。
右下：「足利来るなら織姫様の 赤いお宮を目じるしに カラリコトン カラリコト 足利絵の街 機織の街」と足利音頭で歌われた『足利織姫神社』。

幼いころから慣れ親しんだ

歴史的な建造物

足利市には日本最古の学校である「足利学校」や、最近、国宝として認定された「鏝阿寺」があります。足利学校には小学校の頃に遠足で訪れ、また、「学業の神様」として有名なので、大学受験の時には合格祈願として絵馬を飾りました。鏝阿寺には初詣で訪れたり、毎年冬に行われる「鏝武者行列」というお祭りがあり、そのゴールが鏝阿寺なので、その度に訪れたりした場所です。小さい頃から訪れていた場所が国宝になるといのは、とても嬉しいものなのだと感じました。

県は違えど雰囲気同じ故郷と高崎

思い出数では故郷が勝る

栃木県と群馬県は隣同士であり、その上私の出身の足利市は群馬県からとても近く、故郷と同じ雰囲気を感じました。しかし、高崎で一人暮らしを始め、久しぶりに故郷に帰ると、やはり故郷と高崎の違いを感じました。故郷の風景の一つ一つに思い出があり、帰省する度にとても懐かしく感じます。高崎に約 2 年住み、高崎の風景にも徐々に思い出ができてきたと思います。ですが 20 年近く住んだ故郷には、溢れんばかりの思い出があったということ、別の場所で暮らしたことで改めて実感しました。



ふるさとを語る

海外編 その29

中国 武漢市 「情熱的な都市 繋ぐ都市」

中国主要都市の中央に位置する

歴史的な都市

私の故郷は中国湖北省の武漢市です。華中地域全域の中心都市であり、人口は約一千万人で、面積は 8,494 平方キロメートルの大都市です。武漢市は長江を挟んで、武昌、漢陽、漢口の三鎮が並立し、江城の異称もあります。

武漢はとても歴史的な都市です。黄陂区の盤龍城遺跡には 3500 年前の殷（商）代・方国都邑が保存され、長江流域で発見された唯一の殷代都市遺跡として知られています。そして、武漢を代表するもう一つの名勝地は「黄鹤楼」という楼閣です。これは中国の「江南三大名楼」のひとつで、唐時代の有名な詩人、李白の代表的な漢詩「黄鹤楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」はこの場所が舞台となっています。



『黄鹤楼』。三国時代に建立された後、戦火での焼失と再建が繰り返され、現在は、19 世紀当時の姿を参考にして 1985 年に再建されたもので、高さは約 61.4 メートル。

暑さの影響?! 人々は情熱的で

“交通の要所” 料理は多彩

武漢の夏はとても長くて、暑いと言えます。夏は二～三週間は最高気温 35 度以上、最低気温も 30 度以上の日が続きます。そのため、武漢は中国の「三大火炉」（中国で最も暑い都市、武漢、重慶、南京）に入っています。天候の影響もあるかもしれませんが、武漢の人たちはみんな情熱的で、温かくて、だらかです。湖北省武漢市は、位置的に旧来の中国の中央部にあり、海には面していませんが、「九省通衢」（きゅうしょうつうく。九つの省への通路）と称されて来ました。西から東に長江や漢江が流れ、南北の鉄道や高速道路が合流する交通の要地です。そのため、湖北省の人々は、古くから南北の料理を取り入れ、味も「酸」（酸っぱい）、「甜」（甘い）、「麻辣」（しびれるように辛い）、「清淡」（あっさりした塩味）とさまざまな味付けを受け入れ、多彩な食材を取り入れています。湖北料理は中華料理の四大菜系のどれにも当てはまる部分があり、同時にどれも異なる部分があります。有名な武漢料理は「清蒸武昌魚」、「排骨藕湯」（蓮根と豚スペアリブのスープ）、「豆皮」（ドウビー、ご飯と具の湯葉包み焼き）、「熱乾麵」（辛い混ぜそば、油そばの一種）です。

文化的雰囲気が色濃い学問の地は

日中友好の懸け橋

武漢の大学数は北京、上海に続いて全国第三位を占めています。その中に、「武漢大学」（1893 年創立）と「武漢理工大学」（1898 年創立）などの全国的に有名な大学や研究所が多数あります。武漢大学は風光明媚な珞珈山麓、東湖に面し、広大なキャンパスを誇ります。大学も近代的な建物と、旧式の建物が調和し、校内にも水と緑が豊富です。春になると日中国交正常化を機に植えられた大量の桜が咲くので、その時、一般民衆にも開放し、全国からここに桜を見に来る人も沢山います。まさに日中友好の懸け橋になっています。



上：武漢の至る所で食べられる『豆皮（ドウビー）』。餅米と挽肉を合せて蒸した物の表面に、薄く焼いた卵と豆腐がついている。下：『武漢大学』。中国でも最も歴史がある国家重点大学の一つ。



学生団体紹介

大学公認で活動する学生団体の役員を紹介します。応援団、体育会本部、文化サークル協議会、三扇祭実行委員会、ゼミナール協議会、地域ゼミナール協議会、国際交流協会の7つの団体が、各自で活動を行いながら、学生団体連絡協議会（学連協）という組織をつくり、互いの連携を図り、大学と学生をつなぐ役割を担っています。



応援団



体育会本部

- | | | | |
|--------------|---------|-----------|------------|
| 合気道部 | サッカー部 | ソフトテニス部 | ラグビー部 |
| アメリカンフットボール部 | 直心影流剣道部 | ソフトボール部 | 女子ラクロス部 |
| 空手道部 | 自動車部 | 卓球部 | 陸上競技部 |
| 弓道部 | 柔道部 | バスケットボール部 | ローバースカウト部 |
| 硬式庭球部 | 準硬式野球部 | バドミントン部 | ワンダーフォーゲル部 |
| 硬式野球部 | 少林寺拳法部 | バレーボール部 | |
| サイクリング部 | 水泳部 | ハンドボール部 | |



文化サークル協議会

- | | | | |
|----------------|---------|-----------------|-----------|
| 英語研究部 (E.S.S.) | 教職研究会 | 山野愛好会 | 法律研究会 |
| 英会話愛好会 (E.S.U) | グリークラブ | 写真部 | 漫画研究会 |
| 映画研究部 | 軽音楽部 | 情報システム研究会 (ISS) | マンドリンクラブ |
| 演劇研究会 | 経済数学研究部 | 書道部 | モダンジャズ研究会 |
| 会計学研究部 | 経理研究部 | ハイキング部 | 旅行研究会 |
| 観光研究会 | 考古学研究部 | 美術部 | 歴史研究会 |
| ギタークラブ | 政治経済研究会 | 文芸研究部 | |
| 棋道部 | 茶道部 | 放送研究会 | |



三扇祭実行委員会



ゼミナール協議会



地域ゼミナール協議会



国際交流協会

たか けい グラフィティ

たかけいグラフィティでは、毎回高経大生をリレー形式で紹介し
ます。前回紹介した学生の皆さんからお友達を紹介してもらい、たく
さんの方に登場していただくコーナーです。
質問項目は①お名前②学年③学部学科④出身地⑤所属クラブ、サー
クル、ゼミ⑥お気に入りアイテム⑦おすすめのお店⑧キャンパスラ
イフの楽しみ方です。
あなたの番にまわってきたら、ぜひご参加ください。



- ① 高野 祥太郎さん
- ② 3年
- ③ 経済学部経営学科
- ④ 群馬県高崎市
- ⑤ 大島ゼミ、ACT
- ⑥ 自分の車
- ⑦ シャンゴ、南々、ワインパール
- ⑧ 自然に囲まれたキャンパスで、静かにゆっくり過ごしています。



- ① 荒木 志穂さん
- ② 3年
- ③ 経済学部経営学科
- ④ 群馬県高崎市
- ⑤ Sc@nty、井上ゼミ
- ⑥ 先輩方から頂いたバッシュ
- ⑦ アルコパレーノ
- ⑧ 色んなことに興味をもって楽しむ！



- ① 中井 幹大さん
- ② 2年
- ③ 経済学部
- ④ 秋田県
- ⑤ バトミントン部
- ⑥ 先輩のメッセージ付きTシャツ
- ⑦ からまき食堂（安くていっぱい食べられます。友達とよく行きます。）
- ⑧ 友達と夜中まで遊ぶ！

たか けい グラフィティ



- ① 丸橋 敏也さん
- ② 2年
- ③ 地域政策学部
- ④ 群馬県渋川市
- ⑤ メロンホール
- ⑥ 白いスニーカー
- ⑦ めの娘（ラーメン屋）
- ⑧ 先輩や同輩とのスポーツ、外食が楽しみの一つです。



- ① 金井 杏奈さん
- ② 4年
- ③ 経済学部経営学科
- ④ 栃木県
- ⑤ 広告研究会、ダンスサークル
- ⑥ 好きなモデルがデザインしたバッグ
- ⑦ 今万人珈琲
- ⑧ サボらないで学校に行って、友達と話す機会を増やす！



- ① 松谷 佳奈さん
- ② 2年
- ③ 経済学部
- ④ 福島県
- ⑤ NPO法人カフェあすなろ
- ⑥ 今年のスケジュール帳
- ⑦ 福カフェ
- ⑧ 友達と買い物に行く

たか けい グラフィティ



写真部が行く ⑫

今回の写真 地域政策学部 3年 吉野 真洋 さん



カメラが発明されて以来、時代の動きをリアルにそして細密に切り取ってきた写真家たち。そんな写真家を夢見て日々技術を磨く若者たちの練習の場所として、高崎をテーマにフリー取材を敢行するコーナーです。一撮入魂、今回はどんな高崎を切り取って来るのでしょうか？

SLが走る街

週末の朝、高崎の街を蒸気機関車の汽笛が鳴り響きます。1989年から復活したJR高崎駅発の蒸気機関車(SL)D51は、2011年からC61を加えた2台体制になり、多くの鉄道ファンを魅了しています。

高崎市は今も昔も北関東の交通の要衝として栄える街。高崎駅までを繋ぐ高崎線は、およそ130年前の明治16(1883)年に上野=熊谷間が開業、翌明治17年に高崎駅が開業したそうです。高崎が市制を敷くのは後、明治33(1900)年のこと。いち早く鉄道が整備されたのは、当時の日本の基幹産業だった生糸を、横浜港まで運ぶためといわれます。

現在、高崎=横川間と高崎=水上間を走るSL2車両は、乗車券に指定席料金510円(2014年3月現在)を支払えば、予約不要で誰でも気軽に乗ることができます。外観だけでなく、車窓を巻く煙、蒸気音、機関車に車両がぐっ、ぐっ、と引っ張られる乗り味は、電車しか乗ったことのない世代には、とても新鮮に感じるのでは。週末、思い立ったら駅弁を携えてSLで旅情気分を味わってみるのも一興です。



INTRODUCE - 倶楽部紹介 -



体育会

no.74

柔道部



柔道部は1958年創部、今年で56年の伝統を持つ部活です。北関東五大学第3位・群馬県学生個人第3位・群馬県ジュニア60キロ級ベスト4などスポーツ推薦がない公立大学ながら健闘しています。

部員は男子14人女子1人で全国各地から集まってきており、強豪高校出身者や県大会上位の成績を残している部員も数多くいます。また柔道に触れたことのない学生が毎年入部してくることも特徴で、ほとんどの初心者が在学中に段位を取得しています。昨年度も1年前から柔道を始めた部員が、初段を取得し団体戦のメンバーとして活躍しました。

私たち高経大柔道部は「北関東五大学優勝」を目標に掲げ日々努力しています。この大会は、北関東の国公立大学5校が毎年会場を持ち回りして開催する11人制の団体戦です。現在の3年生が入学する前までは各学年に1~3人しか部員がいませんでした。部員不足により活発な練習ができず、同大会では万年最下位。しかし、徐々に部員が増え、練習メニューも豊富になり各部員が切磋琢磨する練習雰囲気になっていきました。さらに、高崎市内の高校やOBが経営する佐藤道場への出稽古、群馬大学との合同練習など部活時間外の地道な練習が実を結び、2年連続3位という結果で現れました。今年は高経大が主催校となります。ホームでの優勝を目指し、部員一同練習に励んでいきます。

主将 地域政策学部 3年 和合 真也さん



文化サークル

no.75

棋道部



こんにちは。高崎経済大学棋道部です。おそらく棋道部と聞いても何をされる部なのかピンとこない人がほとんどでしょう。実際部活やサークルを聞かれて棋道部と答えても必ずと言っていいほど聞き返されます。今回倶楽部紹介ということで棋道部について一人でも多くの人に興味を持ってもらえれば幸いです。

棋道部は主に囲碁を打ったり、将棋を指したりする倶楽部です。元々囲碁部と将棋部という二つの倶楽部があったのですが、より活動の幅を広げるため何年か前に合体して今の体制になりました。棋道部とはつまり囲碁を打ったり将棋を指したりする者を示す、棋士の道を歩む者の集まりのことを意味しているのです。

主な活動は毎週木、金曜日に行う部会で一日二時間ほど7号館の5階の空き教室で活動しています。ちなみに5階という場所には碁会という言葉と掛けられていたりいなかったり。内容は囲碁将棋の対局、感想戦、棋譜並べなどです。また、活動日以外の日も時間のある人は文サ棟2階にある部室で同様に囲碁を打ったり、将棋を指したりしています。春季と秋季にある関東学生リーグの大会で良い結果を残すことを目標に部員みんなで日々切磋琢磨しています。

他の活動としては学祭で囲碁将棋の対局場を設け部員外の人と対局する環境を作ってみたり飲み会や合宿で皆の結束を高めたりしています。興味のある人は是非一度活動場所に来てみてください。

幹事長 経済学部 3年 和田 豊葵さん

公立4大学 合同大学説明会

6月15日(日)開催

公立4大学とは、群馬県立女子大学、群馬県立県民健康科学大学、前橋工科大学、高崎経済大学の群馬県内の公立大学です。県内及び近県の受験を控える高校生や保護者、高校教員を対象に4大学合同説明会を開催します。各大学の学長による合同パネルディスカッションや、学生発表、個別相談などを行う予定です。●開催場所：前橋市民文化会館(前橋市南町三丁目62番地1) ●開催時間：13時から(個別相談は11時から) ●お問い合わせ＝教育グループ入試・広報チーム：電話 027-344-7584

プログラム	内容
第一部	パネルディスカッション
第二部	学生発表

※相談ブースにて個別相談を同時開催



オープンキャンパス

7月と8月の2回開催予定

高校生、受験生やその保護者を対象に大学を開放し、大学、学部の紹介や模擬授業、進学相談、施設見学など、本学を体験できるイベントです。●お問い合わせ＝教育グループ入試・広報チーム：電話 027-344-7584 ◆開催予定日

回数	開催日
第1回	7月21日(海の日・月)
第2回	8月10日(日)



後援会

平成25年度 TOEIC 成績優秀者表彰

TOEIC 公開テストで700点以上を獲得した学生に賞状及び記念品を贈呈しました。平成25年度の表彰者は以下の方々です。おめでとうございます。

最優秀賞 800点以上(学年は2013年度)	
星野 瑞歩さん	経済学部4年
渡邊 幸恵さん	地域政策学部4年
内山 璃菜さん	経済学部3年
中屋 優人さん	経済学部3年
村上 壮人さん	地域政策学部3年
小林 広奈さん	地域政策学部3年

優秀賞 700点以上(学年は2013年度)	
土橋 達史さん	経済学部4年
小高 浩典さん	経済学部3年
星野 達彦さん	経済学部3年
渡邊 圭太さん	経済学部3年
石川 敦基さん	地域政策学部3年
岡部 真司さん	地域政策学部3年
荒木 望都さん	地域政策学部3年
松本 光央さん	経済学部2年
喬 忠智さん	経済学部2年
牛木 智紀さん	経済学部2年
森 飛翔さん	地域政策学部2年
牧野嶋 千晴さん	地域政策学部1年
他3名	

合宿などにご利用ください

◆保養券利用可能施設

施設名	連絡先
ゆうすげ元湯	027-374-9211
レークサイドゆうすげ	027-374-9131
はまゆう山荘	027-378-2333

上記3施設への宿泊を希望する学生に対し、保養所利用助成券を発行しています。●助成額＝4,000円 ●利用資格＝本学在学学生

◆厚生施設

施設名	連絡先
高経会館	027-344-1521
白馬セミナーハウス	0261-71-1164

教職員、学生、同窓会員等の皆様を対象とした、宿泊・研修施設です。●お問い合わせ等＝後援会事務局(総務グループ内)：電話 027-344-7902 併せて上記アドレスの高経大ホームページ中、後援会ページもご覧ください。

図書館

新規データベースを導入しました

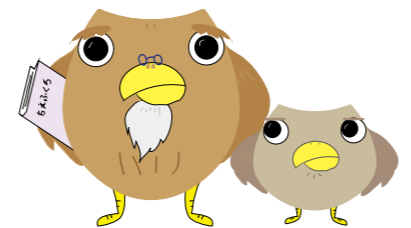
平成26年度から、新たに4つの電子ジャーナルが利用できるようになりました。(SpringerLink、東洋経済DCL、iJAMP、税務会計データベース)

電子ジャーナルとは、Web上で読める雑誌の電子版です。パソコン上でフルテキストを表示したり、データをダウンロードして印刷することができます。電子ジャーナルには24時間いつでも、研究室や図書館など学内のどこからでもアクセスできます。本学が契約している電子ジャーナルは全て図書館ホームページの「電子ジャーナル(学内専用)」から利用できます。

学習・研究の基礎資料として、また、就職活動の際の企業調査など、様々な場面でご利用ください。なお、使い方や検索方法などご不明な点は図書館員におたずねください。●お問い合わせ＝研究グループ図書館チーム：電話 027-344-6266

各コーナー推薦図書のご紹介 3月現在

新自由主義の帰結	新自由主義の帰結
教員推薦図書	本を読む本
コーナー	いま憲法改正をどう考えるか
	イギリスの大学・ニッポンの大学
学生選書	世界経済入門
コーナー	新・資本主義宣言
	踊ってはいけない国・日本
	不完全定理とはなにか
アカデミック	「優」をあげたくなる答案・レポートの作成術
スキルズ	大学生の学習テクニック
コーナー	学生・院生のためのレポート・論文の作成マニュアル
	英語でプレゼン! ビジネスガイド



図書館イメージキャラクター「ちえふくろうとまな坊」

同窓会

同窓会・支部総会のお知らせ

今年度各地で開催される、同窓会支部総会の今後の予定をお知らせします。出身県、近県の方はぜひご参加ください。在学生も大歓迎です。なお、開催内容は決定次第、順次同窓会ホームページに掲載いたしますので、ご確認ください。●お問い合わせ＝同窓会事務局(学生グループ内)：電話 027-344-6262

総会名	開催日時	開催場所
香川支部	4月19日(土)	高松シンボルタワー
桐生支部	5月17日(土)	未定
北見支部	5月予定	未定
愛媛支部	6月予定	未定
青森支部	8月3日(日)	未定
三重支部	未定	未定
石川支部	未定	未定
富山支部	8月30日(土)	未定
新潟支部	未定	未定
群馬支部	9月27日(土)	メトロポリタン高崎
札幌支部	10月3日(金)	未定
東京支部	10月18日(土)	東京ガーデンパレス
東海支部	未定	未定
広島支部	未定	未定
関西支部	11月8日(土)	未定
飯田支部	未定	未定
宮城支部	未定	未定
岩手支部	未定	未定
大分支部	未定	未定

就職支援

就業力育成ネットワークを開催しました

平成22年度から、現役生が同窓生と交流することにより、仕事・社会に対する考え方、在学中の過ごし方などを考える機会として、「就業力育成ネットワーク・同窓生との交流会」を実施しています。今年度も東京、高崎の2会場で実施しました。

◆東京会場



10月5日(土)にチサンホテル浜松町で「就職支援交流会」を開催し、東京在住の本学卒業生が組織する「東京三扇会」6人の同窓生に参加していただきました。

参加した学生は6グループ「建設・人材・コンサルタント・商社・金融・広告」に分かれ、「OB・OGだからこそ聞ける企業や業界の深い話」、「就職活動の心構え」等を質疑・応答形式で相談に乗っていただき、これから始まる就職活動に備えました。

交流会終了後、東京三扇会の若手交流会に出席し、より多くの同窓生と交流して同窓生とのつながりを強固なものとし、有意義な時間を過ごしました。

◆高崎会場



11月16日(土)に本学7号館で「就業力育成ネットワーク in 高崎」を開催し、北は北海道から南は九州まで、全国から同窓生44人にお集まりいただき、「同窓生の自己紹介」「出身地別説明会」「業種別説明会」「交流会」を開催しました。

学生は出身地別グループ・希望業種別グループに分かれ、同窓生から出身地の就職情報や、自分自身の仕事への取り組み方、業種別の仕事内容などを伝えていただきました。交流会では出身地の枠を超え積極的に情報交換を行い、就職活動への不安を解消していました。また、このイベントは地方の学生には地元を知る良いチャンスになっています。●お問い合わせ＝学生グループキャリア支援チーム：電話 027-344-6263

2016年卒の就活スケジュールが大きく変わります!

2016年卒対象の企業の採用活動について、就職活動解禁がこれまでの3年生12月から3月に繰り下がります。

キャリア支援センターでは、3年生対象に6月から就職ガイダンスを開催し、後期からはSPIやエントリーシート対策講座、女子向けやIUターン、業界セミナー等の開催を予定しています。今回の変更により就職活動の期間が短くなりますので、早い時期から就職活動の準備を始めましょう!

今回の表紙

熱血! 高校生販売甲子園



販売甲子園のキャッチフレーズは、「ぼくらの力が地域を変える」。若者の高い理想が、言葉どおりに地域を動かし、6年の間にえびす講のメインイベントに成長した。その力に答えた熱い思いを持つ商店街の人たちの支えも、忘れてはいけない。

経済学部学生数

1年	2年	3年	4年	計
504	521	498	585	2,108
(131)	(130)	(138)	(131)	(530)

地域政策学部学生数

1年	2年	3年	4年	計
461	473	510	554	1,998
(164)	(179)	(189)	(205)	(737)

経済・経営研究科学生数

前1年	前2年	後1年	後2年	後3年	計
4	3	1	0	1	9
(2)	(1)	(0)	(0)	(0)	(3)

地域政策研究科学生数

前1年	前2年	後1年	後2年	後3年	計
12	17	1	2	4	36
(6)	(9)	(1)	(0)	(2)	(18)

数値は人、○内は女性数：2014年3月現在

